

# ウィキペディアタウンの取組紹介

## ～街歩き×魅力発見×情報発信～



埼玉県立熊谷図書館 **いいだ ゆうこ** 飯田 優子

### 1 はじめに

街歩きと情報発信を掛け合わせたイベント「ウィキペディアタウン」<sup>1</sup>をご存じですか？そのキーワードは「地域振興」「地域の魅力の掘り起こし」「シビックプライド(郷土愛)」「情報発信」「コミュニティ作り」「異世代交流」「コミュニティアーカイブ」等で、いろいろな成果が期待できる活動です。

「プロジェクト：アウトリーチ/ウィキペディアタウン」<sup>2</sup>によると、平成29年度時点で埼玉県内の公立図書館が一般参加者を募って実施した例がなく、県内の図書館施設等が行う際のモデルケースになれば…と考えて、当館が先駆けて取り組むことを決めました。そして、平成30年度、若手職員を中心にワーキンググループが編成され、この年の11月25日(日)に開催することとなりました。

図書館のみならず、地域振興、生涯学習等に係る方に参考にしていただける取組のため、紹介をさせていただきます。

【図1】一般的なウィキペディアタウンの構成



街歩き	調査・記事作成	情報発信
・現地で情報収集 ・写真撮影(自分で撮れば著作権がフリー)	・情報収集 ・ウィキペディアのルールを理解して記事を執筆	ウィキペディアの編集 <sup>3</sup>
※基本的にグループワークで記事を仕上げていく		

一般的なウィキペディアタウンの構成は、図1のとおりです。日程は1日、複数日など様々です。

### 2 知られていない図書館の機能…

図書館というと「本を借りるところ」というイメージしかない方も多いかと思いますが、重要な機能の一つに利用者の調べ物の手伝いをする「レファレンスサービス」があります。インターネットでいろいろなことが調べられる時代になりましたが、それでも調べがつかないような事柄について相談を受けることが多くなりました。例えば「昭和20年代に熊谷市箱田に〇〇工場があったはず。現在のどの辺りにあったのか?」という質問であれば、終戦まもなく発行された地図にあたることで解決できます。このように図書館の資料を使えば解決できることが様々ありますが、あまり知られていないのが現状です。

県立図書館では、埼玉県に関する資料を多く所蔵し、特にレファレンスサービスに力を入れているため、図書館の利便性をアピールする方法はないものか模索を続けており、そこで視野に入ったのがウィキペディアタウンでした。「ウィキペディア」に記事を公開する際、情報の出典を明記しなければならないルールがあるため、ウィキペディアタウンの会場として図書館がよく使われています。そういった面からも、図書館と親和性の高いイベントであり、当館で主催する意義があると考えました。

### 3 協力者

調べ物の支援や情報提供は、図書館業務の延長線上にあります。街歩き、情報発信は、私たち職員

にとっては未知の部分でした。あれこれ思い悩むよりも、地元熊谷で活動している団体に協力を仰いだ方がよいのではないかという結論に至り、協力者を探すことになりました。

街の観光資源、地元の人が大切にしていることを理解している団体、ITに明るく熊谷の情報を発信したいと考えている団体とは…。そして、検討の結果、熊谷の歴史を研究し観光ボランティアガイドをしている「くまがい探偵団」<sup>4</sup>、IT技術で地域を盛り上げる活動をしているNPO法人「Code for Kumagaya」<sup>5</sup>に協力要請をしました。二団体とも御協力いただけることになり、くまがい探偵団は街歩き全般（ルート作成、本番を想定したプレ街歩き等）を、Code for Kumagayaは情報発信に関する助言、ウィキペディア編集等を支援して下さることになりました。この他、ウィキペディアの基本をレクチャーしていただく講師として「ウィキペディア日本語版管理者」<sup>6</sup>の日下九八氏をお招きすることになりました。日下氏には、当館職員が参加した他所のウィキペディアタウンにおいて、講師の打診をしていたため、快くお引き受けいただきました。

## 4 各地の事例から見たこと

事前にワーキンググループの職員数名が、各地のウィキペディアタウンを体験し、情報を収集してきました。表1のとおり、バックボーンの異なる3つの団体が主催する事業に参加することができました。

### (1) 様々な主催者

参加職員の感想をまとめると表1のとおりです。

【表1】

実施日・実施場所・主催者	参加して見たこと
2017/11/18 (土) 福井県福井市 福井県立図書館 福井県立文書館	図書館資料が豊富に準備されており、街歩きで見学した場所をしっかりと調査できた。
2018/ 7/14 (土) 長野県白馬村 長野県北アルプス 地域振興局	観光・地域振興を目的とした内容でイベントとしての完成度が高い。

2018/ 7/16 (月・祝) 静岡県沼津市 Code for ふじの くに (NPO 法人)	継続して実施しており（このとき7回目）コミュニティづくりが成功している。参加者は情報発信を楽しんでいる。
---	--

主催者が重点を置いている部分は様々です。根底にあるのはシビックプライドですが、その他、力の入れどころは自由なようです。そして、力の入れ方や開催意図によって、成果は変わってくるように思いました。なお、「プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン」を見ると、大学や有志のグループ等、いろいろな団体が主体となって実施されていることがわかります。

### (2) ウィキペディアンの存在

福井県福井市、長野県白馬村、静岡県沼津市のいずれのウィキペディアタウンにおいても、強い存在感を放つ参加者が数人いらっしゃいました。話を聞いてみると、彼らはウィキペディアに記事を書くことを趣味としている「ウィキペディアン」と呼ばれる人たちで、各地で開催されるウィキペディアタウンに足しげく参加されているとのことでした。独自の視点で街の魅力を発掘したり、各地の地域資料を楽しんだり、ウィキペディアの記事の書き方に不慣れな参加者がいると親切にレクチャーしたりと、彼らはウィキペディアタウンの影の立役者なのではないかと思いました。そして、主催者側の望む働きをしてくれるのではないかと期待したくもなりました。しかし、趣味で参加している彼らに、主催者側の期待を押し付けることはできません。そこで、グループワークで各班1名程度加わっていただけるとありがたい…くらいに考えて、彼らの参加状況を把握すべく、参加申込様式に過去の参加回数等を記入する欄を設けることにしました。

## 5 なぜウィキペディアなのか？

地域の情報を発信する方法はいろいろありますが、なぜ、ウィキペディアに書き込むのか…それは、ウィキペディアが閲覧者数の多いサイトだからです。世界最大級のマーケティング調査・データ分析会社

ニールセン デジタル株式会社のインターネット利用者数ランキングによると、日本においてウィキペディアは Yahoo!JAPAN、Google 等に次ぐ10位の利用者数を誇ります（2018年調べ）。よって、多くの人に読んでいただける可能性が高まるわけです。

協力者の Code for Kumagaya から「ローカル情報を書き込むのであれば、ローカルウィキ<sup>7</sup>という方法もある」と助言がありました。見聞きした情報に典拠を付けずに公開できるため気軽に情報発信できるのが特徴とのことでした。しかし、図書館が主催する意味(図書館資料を使ってほしいという趣旨)から、出典情報を重視するウィキペディアに書き込むことを選択しました。

## 6 埼玉県立図書館版計画

以下のように計画、準備しました。

### (1) 概要

- ①定員:16名 (パソコンを使える小学校高学年～)
- ②日時:平成30年11月25日(日) 9:30~16:30
- ③持ち物等:ノートパソコン等(Wi-Fi環境は当館が用意)、カメラ、ケーブル類  
ウィキペディアアカウントの取得

### ④日程

午前	概要説明	
	街歩き	ガイドが決まったルートを案内
昼	昼食	自由
午後	講義	ウィキペディアの基本
	グループワーク	図書館資料で調査、記事執筆、ウィキペディア書き込み編集(事前に主催者が4グループに分けた)
	講評	

### (2) 役割分担

- ①くまがい探偵団(3名)  
街歩きガイド、ガイド内容に対する質問対応
- ②Code for Kumagaya(3名)  
参加者同様の立ち位置で参加
- ③ウィキペディア日本語版管理者  
ウィキペディアに関する講義の講師
- ④図書館職員

資料調査の手伝い、タイムキーパー 他

### (3) 編集ターゲット

- 千形神社(ちがたじんじゃ)
- 日本聖公会熊谷聖パウロ教会
- 石上寺(せきじょうじ)
- 高城神社(たかぎじんじゃ)
- 中央公園

上記を新規項目として編集することにしました。

ウィキペディアタウンにおいて、編集する項目を編集ターゲットと呼びます(新規項目を立ち上げる場合もあれば、既存項目を再編集する場合もある)。参加者が編集ターゲットを自由に決めるやり方がありますが、以下(4)との兼ね合いで主催者側が事前に設定することにしました。

### (4) 図書館資料の用意

グループワークで調べ物をスムーズに行えるよう、図書館職員が事前に、基本的な地域資料や新聞記事などを抜き出して会場に用意しました。また、関係資料リストも配布することにしました。自分で一から調べる楽しさもありますが、イベントとして限られた時間の中で行うため、この方法をとりました。



### (5) 広報

紙媒体	ポスター、チラシ
	『彩の国だより』『市報くまがや』
	熊谷市内の教員宛に文書
WEB	埼玉県立図書館ウェブサイト
	埼玉県立図書館 Twitter
	彩の国だより WEB版
	Code for Kumagaya の Facebook
	プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン

上記のほか、記者発表(県政記者クラブへの資料の提供)を行いました。

## 7 ウィキペディアタウン in 熊谷

定員16名で実施する予定でしたが、4名で申し込まれたご家族があり、最終的に18名で実施することになりました（関係者を含めると38名）。

### (1) 街歩きの様子



ガイドの説明に耳を傾ける参加者。メモをとったり、写真を撮ったりと、ウィキペディアに書き込む準備はここから始まっていました。

熊谷桜の名所では「春になったら見に来てくださいね」とガイドさんが声掛けをしていました。こういった声掛けがあることで、リピーターを増やし、地域活性につながるものと思いました。

### (2) 講義の様子



図書館職員による図書館ガイダンス、地域資料の紹介などを行った後、ウィキペディアの基本（禁止事項、記述の基本ルールなど）を簡潔に学びました。なお、ウィキペディア編集の公式なマニュアルがないため、レジュメは配布しませ



んでした。

### (3) グループワーク

グループに分かれ（主催者側が事前に班分け）、グループごとに好きな項目を選んでいただきました。編集項目が被らないように、先着順で決定しました。



家族で参加されたグループは「中央公園」を選択。街歩きで「昔、中央公園には小学校が建っていた。」とガイドさんから聞いた小学生のお子さんが調べてみたいとおっしゃったからだそうです。

限られた時間（2時間半）で、資料を調べ、作文し、ウィキペディアの編集を行うのは、かなり忙しい作業でした。満足のいく記事を完成させたグループもあれば、時間不足で焦るグループもありました。

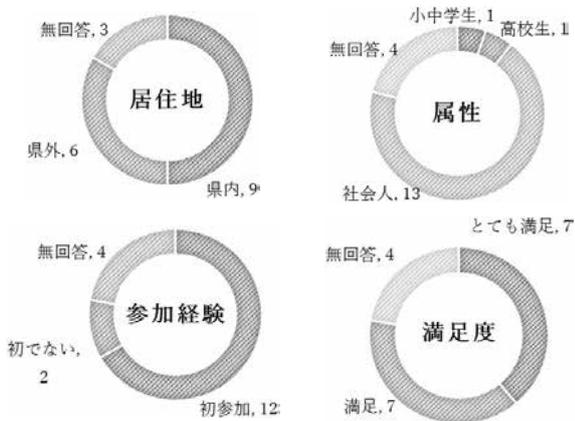
講評で、講師から「今日のイベントが終わっても、ウィキペディアはいつでも続きの作業ができる。ぜひ活動を続けてほしい。」という発言がありました。

ウィキペディアにおいて記事は、最初に書いた人だけのものではありません。誰もが追記・編集ができます。「ウィキペディアタウン in 熊谷」で公開した記事は、今ではたくさんの方の手が加わり、内容が進化しています。

## 8 事業を終えて

### (1) アンケート結果

結果の一部を御紹介します。



どの項目にも一定数の無回答がありますが、参加者名簿と照合すると、主にウィキペディアン（県外居住の方）と推測されました。居住地の無回答を県外に置き換えると、県内外の参加者のバランスは半々でした。県外から参加された方は、ウィキペディアタウンを体験してみたいという動機を持った図書館関係者が多かったようです。

属性については、ほぼ社会人でした。参加対象者を小学校高学年以上で募集しましたが、若年層は家族参加してくださったグループだけという結果で、改めて人を集める難しさを感じました。

自由記述には「熊谷の魅力を知った」「じっくり散策できてよかった」「共同作業が楽しかった」「自作の記事が世界に発信されることが面白い」「もっと活動を続けたい」「図書館にたくさんの郷土資料があることを実感した」「地域づくりにも役立つと思った」といった書き込みがありました。この事業の意義に直結する感想をいただくことができ、ウィキペディアタウンの持つ力を実感しました。

### (2) 取組の成果

以下の成果・メリットがありました。

#### ①地域の魅力を発見し情報発信ができた

情報発信までの工程を楽しんで体験していただけたと思います。見て聞いて終わりの観光ではなく、

自ら情報を発信するという知的好奇心を満たすイベントになりました。参加者の書いた記事は、日々、多くの方の目に触れているのではないのでしょうか。

#### ②図書館の機能を知ってもらえた

記事執筆の工程では、図書館職員が参加者の求めに応じて、地域資料を駆使した情報提供をすることができました。図書館がアピールしなかったレファレンスの機能を発揮することができ、また、図書館に様々な資料があることを周知する機会となりました。

#### ③ボランティアやNPO法人等との連携

地域の団体「くまがい探偵団」「Code for Kumagaya」の協力を得られたことは、私たち図書館にとって幸運なことでした。先方からも「各々の得意分野を活かして実施できてよかった」というお言葉をいただき、協同の醍醐味を感じました。イベント終了後「今後も機会があればお互いに協力しましょう！」という申し合わせができました。

#### ④モデルケース・ノウハウの蓄積

反省点を含めノウハウを得ることができました。ウィキペディアタウンにおける図書館の関わり方について、県立図書館としてのスタンスを確立することができました。

#### ⑤若手職員が積極的に取組み、能力を発揮した

ワーキンググループのメンバーは統括者を除くと勤務5年以内の若手職員がメインとなっていました。柔軟な発想や、ウィキペディア編集への順応力など、目を見張るものがありました。初めて着手するイベントで、自ら考えて行動しなければならない場面が多く、人材育成の場にもなったと思います。

### (3) 実施は協力体制で

ウィキペディアタウンの内容に可能性があることは実感しましたが、今後、このイベントのコーディネートを担当するのは難しいとも感じました。継続的な実施を考えるならば、地域振興等を主業務とする関係者やネットワークの軽い市民団体に主体となって実施していただけるとよいと思います。

県立図書館は、資料提供や調べ方の案内が得意分野ですので、その部分において全面的に協力したいと考えています。当館の事例を参考にいただければ、比較的スムーズに計画を立てることが可能かと

思いますので、興味を持たれた方は、お気軽にご相談をいただければと思います。

様々な立場の方が関わって、今後、更にウィキペディアタウンが広まっていくことを願っています。

## 脚注

- 1 「ウィキペディアタウン」…もともとは地域にある文化財や名所などの情報を、インターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載し、さらに街中に二次元コードを設置するなどして記事へのアクセスの容易さを実現した街を指した。現在、日本では、街の情報を発信するイベントの名称として定着している。
- 2 「プロジェクト：アウトリーチ/ウィキペディアタウン」…今後の開催予定や過去の実施報告について、ウィキペディアタウン主催者等が記録したページ。(https://ja.m.wikipedia.org/wiki/)
- 3 「ウィキペディアの編集」…項目の立ち上げ、項目内の構成、記事の書き込み、写真や図の掲載、典拠情報の付与などの一連の作業、また、既存項目の記事修正等を行うこと。
- 4 「くまがい探偵団」…ウェブサイト参照 (https://kumagai-tanteidan.jimdo.com/)
- 5 「Code for Kumagaya」…ウェブサイト参照 (http://code4Kumagaya.org/)
- 6 「ローカルウィキ」…地域（リージョン）ごとに街の情報を蓄積・編集・発信できるツール。日本各地で様々なリージョンが立ち上がっている。(https://ja.localwiki.org/)
- 7 「ウィキペディア日本語版管理者」…一般利用者には使用できない特殊な編集機能を使うことができ、ウィキペディアにふさわしくない記事を削除したり、悪意ある利用者をブロックする等の権限を持つ。日本語版管理者は2019年9月10日時点で39人。

## 参考文献

- ◎「特集ウィキペディアタウンでつながる、まちと図書館」『LRG = ライブラリー・リソース・ガイド』（2018年）25、アカデミック・リソース・ガイド
- ◎りぶしる 図書館サービス向上委員会の情報公開サイト「ウィキペディアタウン 郷土資料で自分の住む街の魅力を再発見！」(https://libinfo.fjas.fujitsu.com/loy\_report/2017\_wikipediatown.html)
- ◎是住久美子（2016年）「やりたいことを仕事にしよう！ししょまろはん流仕事術」『情報の科学と技術』66巻12号、情報科学技術協会
- ◎日下九八（2018年）「地域資料をアーカイブする手法としてのウィキペディアタウン、またはウィキペディアとウィキメディア・コモンズ」『デジタルアーカイブ学会誌』2巻2号、デジタルアーカイブ学会
- ◎日下九八（2012年）「ウィキペディアの基本的な編集方法と考え方 間違いを正しく編集する」『情報管理』55巻7号、科学技術振興機構
- ◎ニールセン デジタル株式会社「TOPS OF 2018 : DIGITAL IN JAPAN ~ニールセン2018年日本のインターネットサービス利用者数ランキング」(https://www.netratings.co.jp/news\_release/2019/01/Newsrelease20181225.pdf)